

繁殖牛の放牧に活用できる ケンタッキーブルーグラス

《なぜケンタッキーブルーグラスなのか?》

北東北地域の多くの公共草地では、ケンタッキーブルーグラスが優占草種となり、草地造成時に基幹草種として播種されたオーチャードグラスなどと置き換わっています。ケンタッキーブルーグラス草地は牧草の生産性などが劣るとされる一方で、黒毛和種育成牛の増体も優れるとする報告もあります。また、北東北地域の公共草地では、牧草の個体密度が高く、踏付にも強く、植生維持のよい持続型草地への期待も高まっています。そこで北東北地域のケンタッキーブルーグラス草地の畜産的利用価値を再評価しました。

《ケンタッキーブルーグラスはどんな牧草?》

ケンタッキーブルーグラスは茎数密度が高く草丈が低い短草型草種で、放牧向けの草種です。これまでオーチャードグラスやペレニアルライグラスなどの基幹草種と組み合わせる補完的草種として主に使われてきました(写真1)。



写真1: ケンタッキーブルーグラス

《家畜はどれだけ飼える?》

肉用繁殖牛の輪換放牧による牧養力(CD, 体重500kgの牛を1日1頭を維持・飼養できる草地のha当たりの家畜生産力を表す単位)の試験から、2002年に559CD, 2003年は645CDとなりました。また、放牧期間は年間200日で、1日当たり成牛12~13頭/haの放牧が可能です(表1)。

表1 放牧成績

	2002年		2003年		ケンタッキーブルーグラスの被度 (%, 04年4月)
	牧養力 (CD/ha)	放牧回次 毎の頭数/ha	牧養力 (CD/ha)	放牧回次 毎の頭数/ha	
牧区平均	559	11.9	645	13.1	67.8±5.0

注) 放牧期間は、02年は202日、03年は195日、日本短角種繁殖牛による輪換放牧(1週間放牧、4週間休牧)を実施、施肥は年間窒素水準で80~100kg/haを4月上旬と8月上旬~9月上旬に等量分施した。

東北地域の目標牧養力は360-540CD(草地管理指標)とされていますから、両年ともに目標値を上回っています。この目標値は、オーチャードグラスなど高位生産が可能な草種に放牧した場合の値ですが、本試験の結果からケンタッキーブルーグラス草地でもこれらの草種の草地に劣らない牧養力が得られるといえます。さらに、年間の施肥が窒素80~

畜産草地部 放牧管理研究室

梨木 守

NASHIKI, Mamoru



100kg/ha程度で、2年経過後のケンタッキーブルーグラスの被度は70%近くあり、植生はよく保たれ持続型草地として期待できます(写真2)。

《飼料成分に問題ないか?》

栄養価であるTDN, CP, ミネラルを十分に含有し、またNO3-N濃度およびミネラルバランスにも問題はありません(表2)。

表2 飼料成分

	TDN	CP	Ca	Mg	K	NO3-N	K/(Ca+Mg)
4月~10月の 平均	59.6	23.8	0.36	0.21	3.05	0.132	2.2

最後に、草地の主要な牧草がケンタッキーブルーグラスに変化したことを草地の荒廃化と判断し、草地更新を余儀なしとする公共牧場が見受けられます。しかしながら、北東北地域においてケンタッキーブルーグラス草地は、肉用繁殖牛の生産に十分に應える放牧草地として活用されてよいと考えています。



写真2: ケンタッキーブルーグラス主体草地の放牧